

6-4

行事を通しての利用者の社会性の維持

ホーム喫茶による利用者の社会参加と家族交流の場の提供

ホーム喫茶

場の提供

特別養護老人ホーム 白楽荘

介護福祉士 高杉 弘子

介護福祉士 後藤 功

東京都多摩市山王下1-18-2

生活相談員 柴田一佐哲

TEL 042-376-1811

E-mail shibata@rakuyuukai.com

FAX 042-371-1562

URL <http://www.rakuyuukai.com>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

社会福祉法人楽友会が母体である特別養護老人ホーム白楽荘は昭和49年7月に開設。定員150名、短期入所10名の大規模な高齢者介護福祉施設です。多摩の景色を一望できる高台にあり、お部屋の窓からは多摩一面が広がります。

〈取り組んだ課題〉

以前より年間行事として毎年計画され、実施してきた「ホーム喫茶」ではあるが、利用者と職員だけのいわば、小さなコミュニティの役割を担ってきたに過ぎない。平成17年度よりその従来の役割を脱却し、更に利用者の社会性の維持と家族との関係の向上、地域との人々の交流の場となるような行事としての位置づけを確かなものにするを念頭に「開かれた行事」にすること。

- 重度利用者が参加できるようにすること
- 家族の参加率のアップ
- 利用者の自己選択（食べるものを自分で選ぶ）と社会性の維持（自分で食べたものに対してお金を払う）
- 地域との交流としてのボランティアの確保
- 職員の行事参加による取組み意欲の向上

〈具体的な取り組み〉

- 利用者の重度化に対応できる食事メニューの開発
栄養課との協働にて、新メニューを考案、提供。
- 家族の参加率アップのための広告、宣伝活動
 - ・各フロアへのポスター掲示
 - ・毎月発行の会報に予定の掲載と記事の掲載
 - ・年間行事予定表の配布
- ボランティアの確保のために
 - ・ボランティアコーディネーターの配置
 - ・ご家族への行事参加の呼びかけ
- 企画段階での職員意識の向上として、
 - ・介護職員による自発的な運営
 - ・企画段階からの参加により、宣伝活動、メニュー考案、会場装飾、準備、反省会などのスケジュールを計画、実施

☆平成17年度実績

5月、6月、8月、11月、3月 計5回実施

〈活動の成果と評価〉

【平成17年度実績】

5月開催 利用者参加 155名 その他 43名
6月開催 利用者参加 158名 その他 58名
8月開催 利用者参加 161名 その他 55名
11月開催 利用者参加 144名 その他 48名
3月開催 利用者参加 146名 その他 28名

利用者参加合計 764名 その他合計 232名

平成16年度対比 利用者105% その他109%
上記の結果より

- 重度利用者のメニューが功を奏し、利用者参加率のアップに繋がった。
- 宣伝活動方法を変えたことにより、家族（その他）の参加率もアップした。
- 職員が利用者にマンツーマンに対応することにより、自己選択が容易になり、支払の場面でも現金支払で行うことにより、ホーム喫茶本来の目的が達せられた。
- ボランティアコーディネーターを配置したことにより、ボランティア団体、人数も増え、活気のあるホーム喫茶となった。
- 職員の参加意欲が向上し、回をおうごとに運営もスムーズになり、自発的なアイデアが数多く見られるようになった。（装飾、メニュー、サービスマナーなど）
- 利用者、家族からもホーム喫茶に対しての喜びの声が聞かれ、更に要望等も増えた。

〈今後の課題〉

- 利用者、家族、ボランティアに対してアンケート調査を行い、分析し、より楽しめるホーム喫茶にする。
- 日常と違う食事の提供のみでなく、ボランティア等に参加を呼びかけ、コンサートなども開いていきたい。

〈参考資料など〉